

- 1 会議名..... 令和元年度 第2回 安曇野市まちづくり推進会議（推進委員会）.....
- 2 日 時..... 令和元年 12月 23日(月) 午後1時30分から午後3時00分まで.....
- 3 会 場..... 安曇野市役所 本庁舎 3階 共用会議室 306.....
- 4 出席者..... 中楨委員、吉原委員、田村委員、熊井委員、沼尾委員、磯野委員、.....  
大澤委員、峯村委員、川井委員、.....
- 5 担当課出席者..... 宮澤市民生活部長、..... 地域づくり課 山田課長、青柳係長、矢下主査.....  
小笠原主任、土屋地域おこし協力隊員.....
- 6 公開・非公開の別..... 公開.....
- 7 傍聴人 0人..... 記者 1人.....
- 8 会議概要作成年月日..... 令和元年 12月 23日.....

協 議 事 項 等

1 会議の概要

委嘱書交付

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 自己紹介
- (4) まちづくり推進会議について
- (5) 役員の選任
- (6) ワーキンググループの進捗状況報告
- (7) 平成30年度 支え合い助け合う地域社会の構築に向けた提言について
- (8) その他
- (9) 閉会

2 会議事項概要

委嘱書交付（宮澤市長より）

- (1) 開会
- (2) あいさつ【宮澤市長】
- (3) 自己紹介
- (4) まちづくり推進会議について  
事務局より資料1説明
- (5) 役員の選任  
委員の互選により、会長に田村委員、副会長に熊井委員、大澤委員を選出
- (6) ワーキンググループの進捗状況  
事務局より資料2説明

委 員 本会議後も3回目のワーキンググループがあるが、それぞれの立場から活発な意見がでて  
いる。みなさんからご意見があればよろしく願いいたします。

委員 初めに資料を拝見し、これだけ決めれば、何も決めなくてはいいいレベルに達しているように感じた。ただ具体的な対策がないように思える。

安曇野市が発足した際、地区の運営をどうするかという話し合いがあり、三本の柱で行うという考えがあった。区の行政は区で行い、区の行事は公民館で行い、区の福祉は地区社協で行うことが決まったはずであるが、地区社協においては、あまり機能していないのが現状だと思う。地区社協の強みは融通が利き、少ない予算でいろいろな行事が開催できる。

世代交代ができていないことが今の地区の課題であると思う。また、私が区長を務めた当時、福祉員に抵抗がある区があるという話があったと聞いたがいかがか。

委員 いまだに福祉員はすべての区には整備されていない。時間をかけて推進している。福祉員は強制するものではなく、自発的な行動である必要がある。上手く福祉員が機能している区の事例を広めながら、普及に努めていきたい。

委員 ワーキンググループの中でも、区役員の担い手がないこと、世代間の引継ぎができていないことを課題としている。仕事をしながら役員をやる難しさもあるが、地域を支えていくには、自分からやる意識を持っている人をどう育てるかが重要なキーポイントであると思う。

事務局 今回のワーキンググループではそれぞれの主体が区の意義をどう広めていくのか、具体的な意見を出していただいている。次回の推進委員会では地区社協を含めて、より具体的な内容をお示しできると思う。

委員 区を理解してもらって、区のよさを分かってもらうには、一つや二つの施策ではなく、いろいろな施策が複合的に重なることが必要になると思う。それぞれの施策に具体性をもたせていくことに期待したい。

事務局 区の前に隣組があり、隣同士のつながりからうまれてくるものもある。福祉員でなくても日常的に気づくことはできる。みんなが意識をもたないと難しい。

区民であることに意識をもつことが大事、先日のまちづくりフォーラムでは甚大災害があった場合、公共機関が何かしてくれる、という考えではなく、隣近所での支え合い、つながりが大事である、という話があった。プライバシーが大前提になっているが、多少のことはお互いに知ることが大事である。役員の選任においても知り合っていれば、顔も分かるので、世代も下げることができる。

委員 一番、色々を考えず参加できるのが地区のお祭りであると思う。お祭りであれば気軽に子供が入ってくるし、役員でない人もくる。市の財政も厳しいと思うが、もう少し

し上手く広がった援助をしていただきたいと思います。ワーキンググループでは、何をとっかかりとして行うのか考えてもらえればと思う。

委員 私我区では、福祉員である隣組長は代議員という肩書もあり、最先端の区の役員になる。見守り、声かけ、つなぎ役としての活動を求められているが、プレートを下げ、当たり前のように動いているように認識している。役員のなり手がいないという課題の試みとして、世帯に番号をつけて、地域の中で公平に順番をまわす取り組みを施行しようとしている。

委員 課題をいかにつなぎあわせて解決策に結び付けていくことが、これからの仕事であると理解している。その中では、複数の人たちが、同じような仕事をダブって行うことも多いと思う。どのように軽減して、より効率的な運営していくことも課題解決のポイントになっていくと思う。

(7) 平成30年度 支え合い助け合う地域社会の構築に向けた提言について  
事務局より資料3説明

委員 生活支援体制整備事業について説明

委員 生活支援コーディネーターは地域に一人ずつということであるが、それで全体をみることは可能なのか。

委員 どこに行きつくかという、例えば、穂高には23区あるが、そこには23区の実情がある。どのようなことに困っていて、どのようなニーズがあるかと考えるときは、全体というよりも、区長、地区社協と連携して考えていく必要がある。これからのステージになるが、学習会を開催し、地区の方と共有する場をもっていきたい。

委員 民生児童委員に対する区の姿勢であるが、推薦した後は知らん顔となっているように感じる。推薦した以上、区は最後までフォローしていく必要があると思う。

事務局 専門部会でも、民生児童委員は法に基づいて活動を行っているが、区とつながってないと、情報共有や非常時の対応ができないため、区と連携していく必要があると議論している。

(8) その他

委員 本会議はまちづくり推進会議（推進委員会）とあるが、要綱の推進委員の定義が分かりづらい。精査していただきたい。

(9) 閉会